

地域おこし協力隊通信

第3回



今月のリポーター：
森山健吾隊員

皆さんこんにちは!!
3回目の協力隊通信担当の森山です。
さて今回は、協力隊として一緒に何かできないかと連携を考えている「茨城県立潮来高等学校地域ビジネス科」についてです。
地域（潮来）の産業や観光などを学ぶために今年度より新設された地域ビジネス科。立場は違いますが、「3年」という決められた期間の中で、地域という観点で活動していく部分は高校生も協力

隊も共通していると思います。だからこそ、連携を企画しているところですね。
実際に、高校生と交流する機会もいただきました。5月には「潮来市の魅力紹介」をテーマに講義をさせていただきました。また、「あやめまつり」期間中に実施していた「あやめまつりチャレンジ（あやめ園に訪れた方と写真を撮りながら交流するというもの）」にも協力いただきました。
生徒の皆さんに潮来を知ってもらうのはもちろんですが、それと同時に市外から通学されている生徒も多いという点で、自らが住む地域にも興味・関心を持つてくれると嬉しいです。

今後は、生徒がどんな考えや想いを持っているのか。やってみたいこと・挑戦してみたいことなど生徒の本音を探りながら、連携企画を考えていきたいと思っています。

まちづくり・潮来の自然と歴史を知る

潮来市の誇れる自然

第44回

都立高校の生徒さんたちが魚類調査を体験!

夏休み期間中、私たちの施設では、全国の大学生たちが霞ヶ浦・北浦で水質や地質、生きものなどの調査を行い、湖沼の環境問題について学ぶ様々な臨湖実習を提供しています。それらの本格的な実習とは別に、高校生向けの体験学習も行っています。7月9日（火）には、スーパーサイエンスハイスクールに指定されている東京都立川高校の生徒24名が、片道2時間以上もかけていらっしやいました。北浦での魚類調査体験が目的です。

この体験学習では、まず、ウェーダー（胴付き長靴）とライフジャケットを着用し、湖の中を安全にゆつくりと歩く練習をします。水の中に慣れれば、早速、タモ網での採集方法を体験します。追い込み方のコツさえおぼえれば、簡単に小魚やエビ類を採れるようになります。生徒さんだけでなく、引率の先生の採集能力が高く、それに目を奪われました。

そのあと、私たちが研究で使っている投網や小型地曳網、小型定置網での採集も体験して



投網を練習中



採集された魚類（大きい魚はズズキ）

茨城大学広域水圏環境科学
教育研究センター
加納光樹